

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 田原 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	71人	社会	71人	数学	70人
	理科	70人	英語	71人		

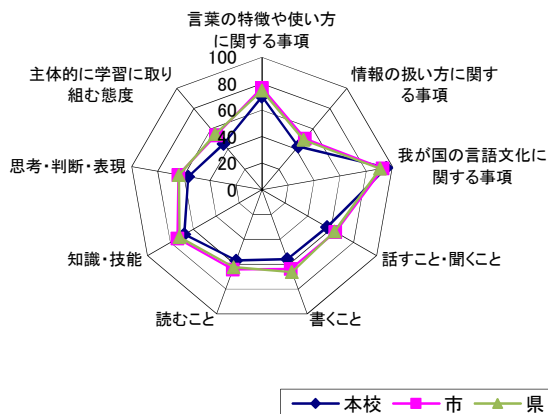
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	70.3	76.9	74.9
	情報の扱いに関する事項	42.5	50.3	49.2
	我が国の言語文化に関する事項	95.5	92.6	90.7
	話すこと・聞くこと	56.7	64.2	63.4
	書くこと	56.0	63.7	66.4
	読むこと	57.0	64.2	62.5
観点	知識・技能	67.8	73.7	71.9
	思考・判断・表現	56.6	64.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	45.1	53.8	54.8



★指導の工夫と改善

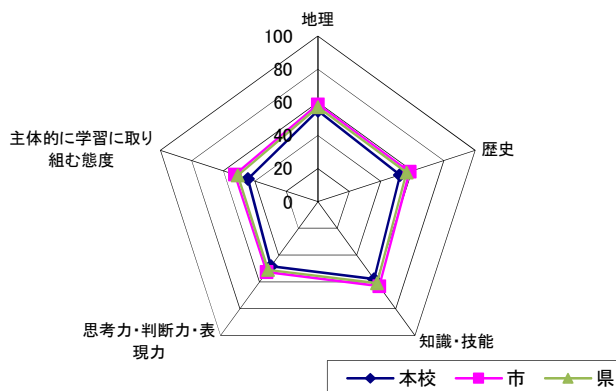
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を6.6ポイント下回っている。 ○故事成語についてよく理解している。 ●漢字に関して、市の正答率と比べて特に低かった問題は、「読む」では、第1学年で学習した「渡航」で18.7ポイント、「書く」では、小学校で学習した「音楽のサインウにめぐまれる」で11.8ポイントそれぞれ下回った。</p>	<p>・漢字を正しく読んだり書いたりするために必要な、①漢字の成り立ち・②音読みと訓読み・③部首の知識の3点を身に付け、それを漢字の学習に生かしていくようにする。 ・家庭での学習時間を充実させ、授業で学習した内容の定着を図られるよう、「家庭での学習の進め方」や「時間の使い方」などの指導を継続していく。</p>
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を7.8ポイント下回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈する問題は6割近くの生徒が正しい答えを選択していた。 ●自分の考えが明確になるように、話の構成を考えて30字以上、50字以内で書く問題では、無解答の割合が32.8パーセントと市の平均を10ポイント以上上回った。</p>	<p>・自分の考えを50字程度でまとめるという、比較的文字数の多い記述式の問題については、作文とは別の苦手意識が見られる。演習を通して、問題を正確に理解し、条件に合わせて文章を書く力は身に付いてきている。演習やその添削を通して、自信をもって取り組めるようにし、書くことに対する苦手意識の軽減に努めていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を2.9ポイント上回っている。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題(みのしーいのしし、かへる→かえる)は、95.5パーセントの生徒が2問とも正しい答えを書くことができた。</p>	<p>・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題は、古典の読解を進めていく上で必要になる基礎的な知識なので、授業や問題演習の度に確認し、更に定着を図っていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均を7.5ポイント下回っている。 ○必要に応じてメモを取って話の内容を捉えたり、話し方の構成を考えたりする問題では、9割の生徒が正しい答えを選ぶことができた。 ●話し合いの内容を聞き取り、話題や展開を捉えて、20字以上、40字以内で書く記述式の問題に課題が見られた。</p>	<p>・「相手が伝えたいことは何か」に焦点を当てたり、必要に応じてメモを取りながら話を聞いたりして、話の内容を捉えられるようにする指導を継続していく。 ・50字程度の記述式の問題については、演習を通して、問題を正確に理解し、条件に合わせて文章を書く力は身に付いてきている。演習やその添削を通して、自信をもって取り組めるようにし、書くことに対する苦手意識の軽減に努める。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均を7.7ポイント下回っている。 160字以上200字以内の作文を書く問題では、下のような状況が見られた。 ○解答した生徒(6割強)全員が「2段落構成で書く」の意味を理解していた。 ●「読み取った内容を明確に示す」「自分の考えを明確にして書く」という点について課題が見られた。</p>	<p>・200字程度の作文の問題については、演習を通して、①原稿用紙の使い方、②「自分の考えを書く」という場合の「考え」の定義、③問題に示された条件を構成や内容に反映させる考え方などに対する理解が深まり、少しずつ自信をもって取り組めるようになってきている。今後も演習やその添削などの学習活動を継続して力を伸ばしていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均を8.7ポイント下回っている。 ○本文中での描写を根拠に、登場人物の心情を捉える問題については、7割強の生徒が正しい答えを選んでいった。 ●表現の効果について読み取り、選択肢の中から適切な答えを選択する問題に課題が見られた。</p>	<p>・説明的文章については、段落ごとに内容をまとめたり、接続語や指示語に注意しながら、筆者の主張を読み取ったりする読み方に加え、同義的言い換えを正確にたどれるようにしていく。 ・文学的文章については、登場人物の言動や情景描写を根拠に、心情を読み取る力は身に付いてきている。自分の言葉として正しく使える、気持ちを表す言葉の語彙を増やすなどの指導を継続し、より深い読み取りができるようにしていく。</p>

宇都宮市立田原中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	54.9	58.7	57.0
	歴史	52.3	58.3	56.4
観点	知識・技能	57.9	63.1	61.0
	思考力・判断力・表現力	48.2	52.5	51.1
	主体的に学習に取り組む態度	44.4	52.6	50.8



★指導の工夫と改善

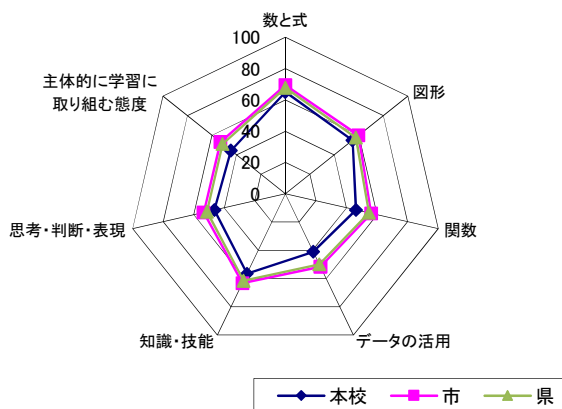
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>全体的に県・市を下回る結果となっている。</p> <p>○「世界の人々の生活」「アジアの農業生産」の項目では、正答率が県の平均を大きく上回っている。特に、資料からの考察では、県が31.0%と低い値に対して、本校の生徒は37.3%で大きく上回っている。学習の際に教科書と資料集を併用している効果とみられる。</p> <p>●緯度、経度の理解において、県の平均を大きく下回っている。地球を球としてとらえながら、世界地図の平面と対比して国々の位置を理解する能力に欠けるところがみられる。</p> <p>●ヨーロッパの単元で各国の経済格差を資料を基にして考察する問いに対して、県の平均正答率が49.1%であるのに対して、本校生徒は32.8%と、県の平均を大きく下回っている。抽象的な事項を多角的に考察する能力が不十分である。</p>	<p>・欧米やアフリカなど日本から離れた地域について関心を高めるために、国際的な情報を毎時間授業で提供するようにする。</p> <p>・掲示物に世界地図を取り入れ、日常の学校生活の中で世界各国の状況や場所を知ることができるようにする。</p> <p>・知識の習得を優先し、将来的に多角的な考察ができるよう、知識を蓄積させる。</p>
歴史	<p>○「卑弥呼」についての理解が、88.1%と県の平均の80.9%よりも、やや上回っている。また、「縄文時代の生活」や「古代文明の特色」においても、県の平均を上回っており、歴史上の解明されていない項目についての興味の高さがうかがえる。</p> <p>●飛鳥・奈良時代にかけての政治や土地制度についての理解が、県の平均を大きく下回っている。特に、聖徳太子の項目では、県の平均が67.1%であるのに対して44.8%とかなり低い数値を示している。</p> <p>●室町時代の勘合貿易に関して、県の平均が33.9%であるのに対して、本校生徒の正答率が16.4%と半分以下である。複数の項目が関連した歴史事項を理解するのが苦手であることが考えられる。</p>	<p>・具体的な資料を用意しながら、それが存在した時代の様子を伝え、少しずつ抽象的な思考ができるように指導する。</p> <p>・基礎的な知識を増やすため、掲示物を工夫する。</p> <p>・思考力、コミュニケーション力を高めるため、グループによる話し合いで答えを導く授業を実践する。</p>

宇都宮市立田原中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	65.0	69.3	67.7
	図形	54.9	59.8	57.7
	関数	46.2	56.2	54.7
	データの活用	40.9	51.6	49.9
観点	知識・技能	56.6	63.2	61.5
	思考・判断・表現	46.5	53.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	44.4	53.0	51.2



★指導の工夫と改善

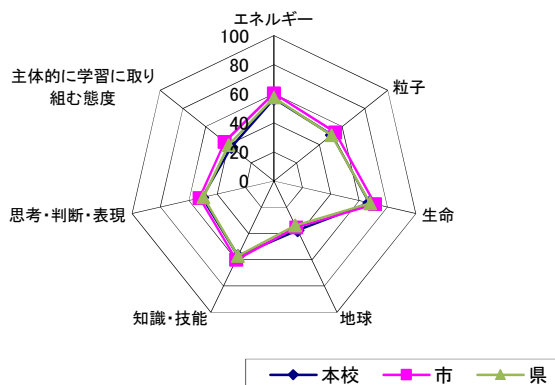
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>全体的に、市平均、県平均を下回る結果となった。</p> <p>○素因数分解や1次方程式、負の数の減法といった行う内容がはっきりしている問題の正答率は、県平均を上回っている。特に、移項をせず1次方程式を解く問題では、校内正答率92.3%と高い正答率となっている。学年末にコース分け学習を行った成果であると考えられる。</p> <p>●累乗や四則といった順序やルールの複雑な計算は市や県の正答率を大きく下回る結果となった。</p>	<p>・解法のはっきりしている問いについては、定着してきているので、複雑化する計算の克服に向けてルールを確認しつつ、1つずつ順を追って学習するよう指導していきたい。</p> <p>・授業時に小テストを定期的実施し、生徒が自ら課題に気付くことのできる環境を整える。</p>
図形	<p>市平均より5ポイント、県平均より2ポイント劣る結果となった。</p> <p>○空間図形の円錐と円柱の関係について理解することができている。</p> <p>●平面図形における移動が理解できていない。それぞれ県平均を5ポイント以上下回る結果となっている。</p>	<p>・用語についての理解ができていないと考えられるので、定期的な復習を行ったり、ICTを活用し視覚から理解を促したり図形に触れる回数を増やしていきたい。</p> <p>・AIドリルを活用し、演習量を確保することで、知識・技能の定着を図る。</p>
関数	<p>市平均より10ポイント、県平均より8ポイント下回る結果となった。</p> <p>○数量の関係を表したグラフを選ぶことができる。</p> <p>●比例の式に表すこと、式からグラフをかくことにおいて、県平均よりも10ポイントほど下回っている。</p>	<p>・関数というものの自体を理解できていないため、身近な具体例を用いて、再度説明する。また、関連する学習内容を扱うたびに、確認する。</p> <p>・小テストやAIドリルを活用し、繰り返し演習させることで知識・技能の定着を図る。</p>
データの活用	<p>市平均より11ポイント、県平均より9ポイント下回る結果となった。</p> <p>○中央値について理解している。</p> <p>●累積度数や階級の度数、相対度数を問う問題において、県平均を10ポイント以上下回っている。</p>	<p>・用語の理解ができていないと考えられるので、身近なデータを用いて、繰り返し学習するよう心がける。</p> <p>・用語を構成する漢字の意味から、用語の意味を連想できるように促す。</p>

宇都宮市立田原中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	56.7	60.3	57.4
	粒子	50.8	53.8	50.7
	生命	67.2	71.2	67.8
	地球	37.4	35.3	33.8
観点	知識・技能	57.0	59.9	57.0
	思考・判断・表現	50.5	52.4	49.7
	主体的に学習に取り組む態度	37.6	43.3	39.8



★指導の工夫と改善

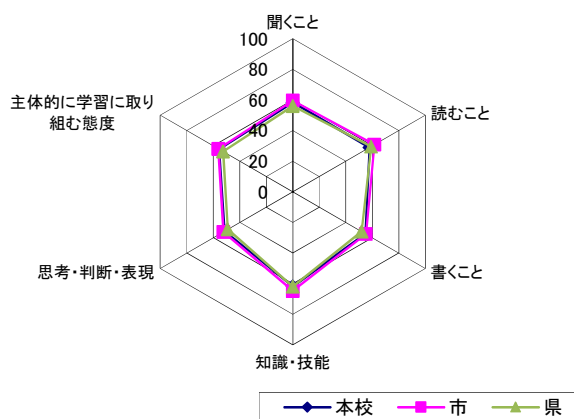
○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>全体的に、県平均、市平均を下回る結果となった。</p> <p>○光の進み方や音における基礎的な内容の知識を問う問題では、理解度が高く、県や市の平均を上回っていた。</p> <p>●実験の結果から考察を導く問題については正答率が低く、平均を大きく下回った。</p>	<p>・知識は身につけてあるが、実験結果から考察を導く問題に課題が見られる。実験と意図を明確にしなが、結果・考察・まとめを順序だてて指導していきたい。</p>
粒子	<p>県平均よりは下回り、県平均とは同等の結果となった。</p> <p>○結晶が出てきた理由の分析については、県の平均を5ポイント以上上回った。</p> <p>●水とエタノールの混合物の加熱に関する問題について、県平均より5ポイント以上下回った。</p>	<p>・解答が難しい記述問題においても、身につけた知識から解答につなげることができていた。エネルギー範囲と同様、実験と考察を丁寧に行い、より深い理解につなげていきたい。</p>
生命	<p>全体的に、県平均、市平均を下回る結果となった。</p> <p>○裸子植物の分類と特徴について、県平均を5ポイント以上上回った。</p> <p>●考察が必要な花のつくりについての正答率が低かった。知識だけでは正答できない問題について、全体的に課題となっている。</p>	<p>・応用的な問題に課題が見られた。知識の活用の場面を多く取り入れ、分類の仕組みをおさえた指導を行っていききたい。</p>
地球	<p>全体的に、県平均、市平均を上回る結果となった。</p> <p>○火山灰の鉱物の割合から火山の特徴を指摘する問題では、県の平均を10ポイント以上上回った。火山の特徴について、表で整理しながらよく確認した成果が表れた。</p> <p>●双眼実体顕微鏡の使い方について、正答率が低かった。</p>	<p>・全体的に高い正答率であった。分析・考察する問題にもよく取り組むことができた。双眼実体顕微鏡についての問いに対する正答率が低かったのは、授業での扱いが少なかつたためと考えられる。岩石の単元等、必要な場面で顕微鏡の使い方の確認を行っていく。</p>

宇都宮市立田原中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	58.4	59.6	56.1
	読むこと	57.9	61.6	59.1
	書くこと	54.8	55.2	51.9
観点	知識・技能	61.8	64.7	61.9
	思考・判断・表現	51.4	52.4	49.1
	主体的に学習に取り組む態度	55.6	56.1	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均に比べると1.6ポイント下回っているが、県より2.3ポイント上回っている。</p> <p>○絵を適切に表している英文を聞き取る問題では、県の平均より6.2ポイント高く、聞くことに関しては全体的に良好である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度まとまった英文を目的をもたせて聞かせ、要点や概要を聞き取る力をつけていく。 ・教師やALTのsmall talkや生徒同士である題材について話す活動などの英語でのやり取りを継続して行い、聞く力を高めるとともに、たずねられたことに対して自分の考えを英語で答えることができるようにしていく。 ・デジタル教科書を活用して、自然な英語の音に慣れさせる。
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均に比べると3.7ポイント下回っているが、県より1.2ポイント上回っている。</p> <p>○対話の流れと表から、適切な語句を選ぶ問題では、県の平均に比べ、5.2ポイント高い。また、代名詞Theyの内容を答える問題では、県の平均に比べ8.8ポイント高かった。教科書本文を読み取る際に、代名詞に注目させ何を指すのか考えながら読んでいる成果であると考えられる。</p> <p>●英文の情報を正しく読み取り、適切な語を選んだり、対話の流れと表から登場人物の適切な発言を選んだりする問題は課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も大まかな内容や要点がつかめたかどうか確認をするTFクイズやQ&A活動を行っていく。また、代名詞が指しているものは何か考えさせ、細かい部分での読み取りができているかを確認していき、読む力を高めていく。 ・基本的な単語や基本文の定着を図り、正しく情報を読み取ることができるようにしていく。
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○留学生を家族に紹介する英文を書く問題では、市や県の平均に比べ、正答率が高かった。</p> <p>●自分の学校生活を含めて、まとまった内容で自己紹介をする文を書く問題では、問われている自分の名前を第1文目に書くことができず、読み取って条件にしたがって書くといったことに課題が見られる。</p> <p>●対話の流れに合った英文(一緒に行くことができるかと相手を誘う英文)を書く問題では19.4ポイントと課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な語句や基本文の練習を家庭学習に位置付け、小テストを行って身に付いたかどうかを確認していく。 ・既習の語句や文法を繰り返し使う機会や書く機会を設けて、定着を図る。また、間違いやすい英文は、全体で共有し正確に書けるようにしていく。 ・基本的な情報を書く活動だけでなく、読んだことをもとに自分の考えや気持ちを書いたり、場面や状況を把握して適する英文を書く活動を行っていく。

宇都宮市立田原中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【学習について】

○「授業を集中して受けている」については97.1%、「家で、学校や塾で決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」については70.6%の生徒が肯定的な回答をしており、いずれも市の平均を5ポイント以上上回っている。このことから、授業や学習に対して前向きに取り組んでいる様子がうかがえ、自らの知識・技能の定着を図るために主体的に学びを深めていると考えられる。

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」については76.5%、「家で、学校の宿題をしている」については97.1%の生徒が肯定的な回答をしている。(市の平均との比較すると、前者は11.6ポイント、後者は3.1ポイント上回っている)このことから、家庭で宿題に取り組むことの必要性を理解し、学習する内容に優先順位を付けながら、計画的に学習に取り組もうとしている様子がうかがえる。

●平日の学習時間が2時間未満の生徒は76.5%(市の平均は70%)、土日の学習時間が2時間未満の生徒は62%(市の平均は53%)おり、家庭学習の時間が不足している傾向が見られる。特に、土日の学習時間については、まとまった時間を取って学習に臨もうとする意識が低く、また、生活習慣自体も学習に堪えられるものになっていない様子がうかがえる。生活・学習習慣については、高校進学や社会的自立を視野に入れながら、①3点固定…起床・家庭学習開始・就寝の時刻を固定する、②その日の「やること」に応じてその日の時間の使い方を変える、③すき間時間の活用…15分程度の時間も活用するなどの習慣や工夫を生活の中に取り入れられるよう継続的に指導していく。

【生活について】

○家族との関わりについての質問において、肯定割合が県や市よりも高くなっており、家族との関係が良好である生徒が多いことがわかる。

○地域や社会との関わりについての質問では、県や市との比較して5ポイント以上高くなっており、「自分の良さを人のために生かしたいと思う」の肯定割合が県、市よりも高いことから、日頃の地域の支援や関わりを十分に感じ取り、地域における構成員としての自覚をもった生徒が多いと言える。

●「学校のきまりを守っている」の肯定割合が高いわりに、「クラスのきまりなどを話しあって決めている」「自分はクラスの人の役に立っている」については、県、市よりも肯定割合が低くなっている。個人の意識は高いが、集団としての規律が守られない場面を多く見たり、自分の活躍の場面が見出せなかったりしていることが原因と考えられる。学校内の規律を明確にし、誠実に生活している生徒が不利益を感じるようなことがないように、生徒指導部を中心に集団としての規律づくりをしていく必要がある。

●「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」について、県、市よりも肯定割合が低くなっていることから、困難な状況に向かっていくことへの自信のなさや不安があると判断できる。普段の授業の場面だけでなく、様々な場面において、学校全体で生徒が活躍・挑戦する機会を多く創出することが必要である。

●(47)(48)から、県、市よりも本校生徒は携帯電話やICT端末に触れる機会が多いことがわかる。情報モラル教育、デジタルシティズンシップ教育を充実させ、適正な利用時間や使い方を主体的に考えることができるように指導していきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
わかる授業の展開を中心とした学習指導の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本を確実に習得させるために、ねらいと振り返りを行い、その時間に学ぶべきことがわかったかどうか確認させる。 タブレットの有効的な活用 家庭学習の習慣化の定着に向け、毎日家庭学習ノートの提出 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の質問への肯定的回答が県や市に比べ下回っている。何を学んだのか認識させるためにも、さらに重点を置いて取り組んでいく必要がある。 「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」への肯定的回答は、県や市より上回っている。しかし、一日当たりの勉強時間が少ない。
対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で周囲と意見を出し合い、考えを深められるような時間を取るようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の質問への肯定的回答は、県や市より上回っている一方、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動を良く行っている」の質問への肯定的回答は、県や市より下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> 対話的で深い学びの実現に向け、授業改善をしていく。 家庭学習時間が短いので、学習内容の充実を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動に制限はあるが、授業内で話し合い活動を取り入れていく。 家庭学習の推進をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> できる範囲で話し合い活動を取り入れ、友達と話し合う活動を通して、より深く理解できるようにする。 家庭とも連携を図り、より主体的に家庭学習が進められるよう啓発していく。